

富士山

Mt. Fuji — Beauty of a Classic Symbol —

企画 外務省

イーストマンカラー 25分

英・仏・独・西・葡語版

【内 容】

この映画は、富士山に対する日本人の古来の懼れを導入に、現代の富士山を描いたものである。富士は詩にもうたわれ絵画にも描かれつづけてきたが、映画こそほんとうの富士の素顔とその豊かな生活を描くにふさわしいものであろう。

富士は雲という厚いヴェールを被っていることが多く、偶然に思いがけない高いところに顔を出しているのを見ると崇高の感に打たれる。しかし、近づき踏み入った富士、科学的に見た富士山は、遠くから望んだ富士とはまた異った興味深い山である。

火山としての興味、動植物ことに野鳥の宝庫としてのたのしさ、通俗には登山のたのしみもある。夏は頂上に近づくに従って空気の稀薄になるのをこらえれば幼い子を背負っても登れるほど親しみやすい山だが、冬の富士は容易に人を近づけないきびしさである。

映画は夏を主に四季の変化をとおして富士をとらえている。

■ 製作スタッフ

製作 村山英治 編集 沼崎梅子

脚本 村山正実 音楽 間宮芳生

撮影 村山和雄

株式会社 桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1 〒160 電話 03 (342) 5768